

文部科学省スーパーサイエンスハイスクール中間評価について

このたび文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業について、3月8日に中間評価が発表されました。評価は6段階からなり、本校は最も高い評価「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される」を受けました。なお、今回の中間評価で、この評価をいただいたのは、本校1校でした。

本校の取組に対しSSH企画評価会議協力者からは、次のような講評をいただきました。

- 探究力を伸ばすために、※探究モジュールを設定し、理数のみならず、他教科においても探究モジュールの方法を適応して、探究力を総合的に伸ばす取組を行う等、研究課題名および目的の第一に上げている「探究力」の育成に適切に取り組んでいる展が、大いに評価できる。
- SSH事業で、生徒のどのような資質・能力を伸ばしていくのかという点について具体的な目標を設定し、その実現・成果についてしっかりと評価しようとする点が評価できる。さらに、計画を単に実行するのではなく、議論しながら改善を加えて柔軟に対応していこうという点も評価できる。
- 生徒を海外へ派遣し、その成果を他の生徒にも文化祭などを通じて伝えてはいるが、より多くの生徒に成果を普及し、生徒の意識を高められるような取組の工夫や充実が期待される。

※探究モジュールとは

- ・探究活動に必要な資質能力を表す造語、本校の探究活動の中核をなす独自のシステム
- ・「読み解く力」「課題発見力」「仮説設定力」「計画力・実証力」「考察力」「表現力」のこと

※探究モジュールのねらい

- ・「読み解く力」などの探究モジュールを重点的に育成する教材の作成、授業の展開
- ・探究活動と教科学習との連携強化
- ・教科におけるアクティブラーニングの推進

詳細は以下をご覧ください。

>http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/03/1383057.htm